平成31年 新春の挨拶 各幕僚長

多次元統合防衛力の構築をめざして

統合幕僚長　海将　河野（かわの）　克俊（かつとし）

第5代（H26・10）防衛大21期　神奈川県出身

平成31年の初春を迎え、隊友会の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、旧年中に賜りましたご支援・ご協力に対し、心より厚く御礼申し上げます。

さて、我が国を取り巻く昨今の安全保障環境は、様々な課題や不安定要因がより顕在化・先鋭化してきており、一層厳しさを増しております。

そのような中、自衛隊は、365日24時間態勢で警戒監視を行い事態に即応できる態勢を維持しています。

また、昨年は、「平成30年7月豪雨」及び「平成30年北海道胆振東部地震」等の災害発生に際し、人命救助及び、給水支援等各種の災害派遣活動を実施したほか、国際社会と連携し、国連安保理決議の実効性確保のため、北朝鮮による「瀬取り」の監視活動に取り組みました。

国外においては、インドネシア共和国スラウェシ島において地震及び津波により発生した被害に対し国際緊急援助隊を派遣、また、ソマリア沖・アデン湾においては、海賊対処を実施し、引き続き海上交通路における航行の安全確保、国際社会の平和と安定に貢献しております。

統合訓練においては、平成30年日米共同統合演習、自衛隊統合防災演習、タイ王国におけるコブラ・ゴールド等の訓練を通じ、武力攻撃事態等への対処、大規模災害への対処等における統合運用要領を演練し、実効性の更なる向上を図っております。

また、米統合参謀本部議長やインド太平洋軍司令官との会談を重ね、日米間の緊密な連携を図るとともに、豪印をはじめとする関係各国との防衛協力・交流を実施しました。

昨年末には新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画が示されました。今年は、各種事態に対応し得るよう、この新大綱及び中期防を踏まえ、陸海空のみならず、宇宙、サイバー及び電磁波といった新たな領域を組み合わせた領域横断作戦を遂行するための機能及び能力を向上し「多次元統合防衛力」の構築を着実に進めてまいります。

一方で、昨年起した、民間の方々に被害を及ぼすという、自衛隊としてあってはならない事故に対する痛切な反省を踏まえ、安全管理に対する指導と再発防止策の徹底を図ってまいります。

我々自衛隊は、国民の皆様の期待に応え得るよう、各自衛隊が心を一つにして統合運用をさらに進化させ、事態に即応し実効的に対応できる態勢を維持していく所存です。

最後になりましたが、隊友会の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜ることをお願い申し上げますとともに、隊友会のご発展と会員皆様のご健勝とご多幸を心より御祈念申し上げます。

～新たな飛躍に向けて～

陸上幕僚長　陸将　山崎（やまさき）　幸二（こうじ）

第36代（H29・8）防衛大27期　山梨県出身

新年おめでとうございます。隊友会会員の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、旧年中に賜りましたご厚情に心よりお礼申し上げます。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、より一層複雑化し、不確実性が増大しています。また、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域の脅威が現出し、かつてないほど厳しい状況と認識しております。

このような中、昨年は、統合運用態勢の実効性を向上させるため、3月に陸上総隊、教育訓練研究本部及び水陸機動団の新編、第8師団・第14旅団の機動師・旅団への改編等を行い、「即応機動する陸上防衛力」を具現する新たな体制の骨格を整備しました。本体制の下、我が国の平和と独立、国民の生命と財産を断固として守るため、日夜厳しい訓練に励むとともに、7月の西日本豪雨及び9月の北海道胆振東部地震を始めとする自然災害に即応性をもって対処し、国民の負託に応えることができました。

また、米陸軍及び米海兵隊との共同訓練や防衛交流を通じ日米同盟の強化を図るとともに、国連PKO支援部隊早期展開プロジェクト、国連PKO工兵部隊マニュアル改訂のための国際会議の主催等を始めとする陸上自衛隊ならではの国際平和協力活動を行い、国際社会の平和と安定に貢献しました。

本年は、現在取り組んでいる「陸上自衛隊創隊以来の大改革」を引き続き推進するとともに、昨年末に策定された新たな「防衛計画の大綱」等に示す多次元統合防衛力を実現する陸上防衛力の構築に着手する所存です。また、本年は天皇陛下のご退位及び皇太子殿下のご即位等の国家的な行事があり、陸上自衛隊に与えられる任務を着実に遂行したいと思います。

新年にあたり、時代の変化に的確に対応し、国家、国民の負託に応えるため、改めて日々の隊務に精励することをお誓いするとともに、皆様にとり本年が幸多い年となることを祈念申し上げます。本年も引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

～新時代の海上防衛への挑戦～

海上幕僚長　海将　村川（むらかわ）　豊（ゆたか）

第33代（H28・12）防衛大25期　神奈川県出身

隊友会の皆様、新年おめでとうございます。旧年中賜りました数々の御支援・御協力に対し、海上自衛隊を代表し、深く感謝致します。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、既存の秩序をめぐる不確実性が増大するなど、極めて速いスピードで変化しています。また、人工知能を搭載した自律型無人兵器システムの研究にも取り組んでおり、これらは、将来の戦闘様相を予見困難なものとしています。

翻って我が国周辺では、中国が今世紀中葉までに「世界一流の軍隊」を建設することを目標に、透明性を欠いたまま、軍事力の質・量を広範かつ急速に強化しています。北朝鮮は、朝鮮半島の完全な非核化に向けた意思を表明したものの、核・ミサイル能力に本質的な変化はありません。

このような情勢下、海上自衛隊は、国民の皆様の期待に応え、厳しさを増す安全保障環境に対応し、我が国防衛はもとより、「自由で開かれたインド太平洋」を実現していきます。このため、昨年末、新たに策定された防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画を踏まえ、「人的基盤」、「作戦基盤」及び「装備技術基盤」の3つの基盤強化を加速して参ります。特に、人的基盤の強化においては、民間技術力や退職自衛官の一層の活用、無人化・省人化を重視し、作戦基盤の強化では、新たな領域での能力を含めた各種戦能力の向上、米海軍との更なる相互運用性向上を重視、装備技術基盤では、防衛装備庁と連携したゲームチェンジャーとなり得る装備品の研究開発に、これまでとは異なるスピード感をもって注力して参ります。

全隊員一丸となって我が国を守り抜くため、果敢に挑戦する海上自衛隊に、本年も皆様からの御支援・御協力を賜ることができれば幸甚です。最後になりますが、本年が皆様にとって幸多き年になることを祈念し、年頭の御挨拶とさせていただきます。

新たな領域における能力の獲得・強化

航空幕僚長　空将　丸茂（まるも）　吉成（よしなり）

第35代（H29・12）防衛大27期　群馬県出身

隊友会の皆様に、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、旧年中は、航空自衛隊に対し格別のご厚誼を賜り、ありがとうございました。

平成30年を振り返りますと、航空自衛隊は、弾道ミサイルに対する態勢の維持、増加の一途を辿る対領空侵犯措置、西日本豪雨や北海道胆振東部地震といった各種災害への対応など、国民の皆様の安全安心のため、日夜、任務を遂行してまいりました。

このような安全保障の現実に正面から向き合い、従来の延長線上ではない実効的な防衛力を構築する必要があるとの考えのもと、昨年12月に「新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画」が策定されました。新大綱・中期防では「多次元統合防衛力」を構築し、領域横断（クロス・ドメイン）作戦に必要な能力を強化するとされています。

新しく迎えた平成31年は、多様化する任務を着実に遂行するとともに、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域における能力の獲得・強化、柔軟な運用が可能な短距離離陸・垂直着陸（STOVL）機を含む戦闘機体系の構築、スタンド・オフ防衛能力及び総合ミサイル防空能力の強化等により、太平洋側を含め、空における対処能力をさらに向上させてまいります。従来にはなかった領域、機能、地域における能力の獲得に挑戦し、新たな航空自衛隊として、改革や改編よりも更に踏み込んだ進化を成し遂げ、国民の皆様の生命・身体・財産、我が国の領土・領海・領空を守るため、一丸となって任務に邁進し、国民の皆様の負託に応えたいと思います。

本年も引き続き、皆様の航空自衛隊に対するご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。最後に、隊友会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝及びご多幸を祈念して、新年のご挨拶といたします。

海外派遣部隊からの挨拶

第31次派遣海賊対処行動水上部隊指揮官
第1護衛隊司令
1等海佐　東（あずま）　良子（りょうこ）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

第31次派遣海賊対処行動水上部隊第1護衛隊「いかづち」は、昨年9月5日に第30次隊から任務を引き継ぎました。当地でも冬に入り、暑さは幾分和らいできたものの、日中30℃を超える日もある中、アデン湾の洋上で新年を迎えております。

海上自衛隊を含む各国海軍等の努力や国際社会の取り組みにより、海賊事案の発生件数はここ数年、極めて低い水準で推移しているものの、一昨年は発生件数が増加する等、予断を許さない状況が継続しています。また、海賊発生の根本的な原因とされているソマリア国内の貧困は依然解決されていないことからも、ソマリア沖・アデン湾において引き続き海賊対処を行っていくことが求められています。

我々水上部隊は、当該海域に派遣されている海上自衛隊航空部隊や各国海軍等の軍艦・軍用機とも緊密に情報交換等を行いつつ、また、同乗している海上保安官とも連携しながら、全隊員が一丸となり、任務を完遂するとの気概をもって、各人の職責を果たしながら頑張っております。

隊員一人ひとりが遠く離れた日本にいる家族との絆に想いを致しつつ、皆元気に新しい年を迎えられたことをここに報告しますとともに、改めまして日頃からご支援・ご協力をいただいております皆様方に心より感謝申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

第33次派遣海賊対処行動航空隊司令
2等海佐　栗下（くりした）　明彦（あきひこ）

新年明けましておめでとうございます。

皆様には希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、旧年中、当隊の派遣及び派遣準備に関して賜りましたご厚情に深く御礼申し上げます。

第33次派遣海賊対処行動航空隊は、昨年10月から灼熱の地ジブチを拠点とし、ソマリア沖・アデン湾におきまして、我が国をはじめとする各国の商船を海賊から守るため、諸外国海軍と協力しながら護衛を実施しています。

この護衛活動が功を奏しまして、近年の海賊発生件数は激減し、海賊からの被害を受けていない状態が継続しています。

そして、我々の活動が、直接的に日本にとって死活的に重要な生命線である海上交通を防護し、日本の国益及び世界の安定に寄与できていますことに、大いなるやり甲斐と責任を感じている毎日です。

しかしながら、海賊の発生の根本原因であるソマリア及び周辺国における政情の不安定な状況及び貧困問題等は、その解決の方向性すら見えない状況で、海賊がいつ出現してもおかしくない状況に変化はなく、予断を許さない気の抜けない緊張状態が続いています。

第33次派遣海賊対処行動航空隊の派遣活動も、残すところあと1カ月強となりました。この海域を通過する船舶が安心して航行できますよう、最後まで気を引き締めて、任務の完遂に努めてまいります。

最後に、本年が皆様にとりまして良き年であることを御祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

第10次派遣海賊対処行動支援隊司令
1等陸佐　関谷（せきや）　拓郎（たくろう）

新年あけましておめでとうございます。

灼熱の地、ジブチ共和国について、もの凄く暑い夏とそうでもない夏の2シーズンしかないと地元の人たちはよく言っていますが、意外にも12月から1月にかけては非常に快適な天候が続き、日本よりも過ごしやすい季節となっています。海賊対処行動が始まった10年前と比較し、ジブチ市街地の衛生状況は大幅に改善され、本邦と変わらない立派な施設も散見されるようになって来ました。これ等と共に、ジブチ官憲や住民の人当たりも穏やかになったように感じられ、拠点で勤務する現地雇用者の中にも洗練された若者を多数見かけるようになってきました。

また、ジブチで各種業務を進める際には、各国大使館や駐留軍との連携が非常に重要であり、特に最も影響力のある仏軍とは頻繁に意思疎通を図ると共に、日本大使館とは車の両輪のような関係を維持しながら任務に当たっています。

このような環境の中、昨年8月から本任務に当たっている我が隊も、間もなく任期の6カ月を終える運びとなり、帰国の雰囲気が徐々に感じられるようになってきました。ここまで、海賊対処行動を通じて国際平和や同盟国等との信頼強化に貢献できたことを隊員一同誇りに思っており、改めてご支援、ご声援を頂いた皆様に深く感謝申し上げ、新年の挨拶と致します。

第46回 全自衛隊弓道大会を開催

全国の自衛隊に勤務する弓友とそのOBが参加する「第46回全自衛隊弓道大会」が12月9日、全自衛隊弓道連合会主催、全日本弓道連盟及び隊友会の後援により、団体、個人合わせて37チーム、164名が参加して、明治神宮至誠館第二弓道場で開催された。

快晴の青空の下、10時から競技が開始され、各自四つ矢2回の的中制で団体戦と個人戦（団体戦の成績が個人戦の成績を兼ねる）を行い、優勝チーム、射道最優秀チーム及び五段以上の部優勝者には防衛大臣賞状と防衛大臣杯が贈られた。なお、射道とは射法に基づく形を重視した採点法による競技である。

開会式では、岡真臣全自衛隊弓道連合会会長（防衛省人事教育局長）が岩屋防衛大臣の着任の辞に触れ、「国民の負託にこたえるためには『高い倫理観』が必要である。至誠と礼節を重んじる弓道において、是非とも『高い倫理観』を磨いて欲しい」と要望した。

今年は、宮内道廣範士八段（三重）が隊友（称号）の部で優勝、豪快かつ切れのある射で選手及び大会関係者を魅了した。

成績は次の通り。

●団体戦A
【優勝】空自百里A（岡田、大西、大崎）
●団体戦B（射道）
【最優秀】混成那覇A（吉田、親泊、鶴田）
●個人戦
○五段以上の部
【優勝】岡田 智光（空自百里）
○参・四段の部
【優勝】兵藤 佑都（学生防大）
○初・弐段の部
【優勝】奥村 龍成（学生防大）
○女子の部
【優勝】小池田 裕香（空自那覇）
○隊友（有段）の部
【優勝】原田 昌彦（埼玉）
○隊友（称号）の部
【優勝】宮内 道廣（三重）
○一般男子ダブルス 優勝：岡田英之、渋田雄飛（市ヶ谷）
○壮年男子ダブルス 優勝：森末浩史、寺田浩通（府中）
○女子ダブルス 優勝：松尾百恵、島田和美（佐世保）
○男子シングルス 優勝：南部湧気（佐世保）
○女子シングルス 優勝：道下薫（海自沖縄）

隊友（称号）部の優勝・宮内選手

第13回 全自衛隊テニス大会を開催

11月24・25日の2日間、千葉県白子町のアポロコーストテニスコートにおいて全自衛隊テニス連盟（吉田浩介会長）主催、隊友会後援の「第13回全自衛隊テニス大会」が選手・監督219名、大会役員14名の参集を得て、盛大に行われた。

大会は、団体戦16個チーム、一般男子ダブルス16組、壮年男子ダブルス8組、女子ダブルス8組、男子シングルス14名、女子シングルス8名の区分で激戦が行われ、成績は次のとおりである。

○団体戦 優勝：防衛医大（関東）
準優勝：入間A（関東第3位：佐世保（九州）

団体戦優勝の防衛医大チーム